

※各家墓所の改修時は

各家の墓所を改修する時は、施工する石材店に工事をする上での注意事項などがありますので、寺にご連絡ください。なお、墓地を整備したため、十力所ほどの新しい区画があります。ご親戚やお知り合いが必要とされる方がおられましたら、お頒けすることができます。詳しい事は寺へ直接連絡ください。

※年忌法要後の食事は寺でもできます

壇信徒会館（三階建）は、年忌法要後のお食事にお使いいただけます。壇信徒会館の二階は椅子席で十八席。三階は畳に座布団で四十名くらいまで会食できます。お使いください。

※日曜の朝の坐禅会

毎週日曜日の朝六時から七時まで、松岩寺本堂での坐禅に一般の方も参加できます。朝六時に鐘をつきますから、それまでに本堂に入ってください、初心の方にも丁寧に坐り方をご案内します。三十分ほど坐って休憩、残りの十五分ほど坐って、最後に般若心経をよんで七時には終わりです。

※教養講座

【金つぎ教室】 日程 講師 花輪滋實

第三土曜日 午後一時半～四時半まで

【仏像を彫る会】 日程 講師 高野竜生

午後一時半～四時半まで

原則として第二・四日曜日です。

【声を出して元気になる】 不定期 講師 加藤純子

ちよつとながめの

編集後記

○下手な文章でもちゃんと読んでくれて、いたらないことを教えられる人がいるから有り難いです。今回裏面に書いた「御仏前」袋は、お施餓鬼法要のご案内でも書きました。それを読んでくれた某氏が、「御仏前」袋を最初に印刷した商魂たくましい有名企業を教えてくださいました。そして、最近「お盆玉」袋なるものまでたくさんでいるとの情報も伝えてくれました。舞台裏を知ってしまうと興奮めになる場合もあるけれど、背景まで目を向けないと、実像は浮かびあがってきません。まだまだ書きたいことはあるけれど、「御仏前」袋に関することになると、過激で愚痴っぽくなるのでこのくらいで。

○愚痴といえば裏のページで、墓地の樹木でお叱りをいただくことを書きましたが、私が修行した平林寺には松平伊豆守の御廟があります。その御廟にのぼって行く坂の途中に実業家の松永安左工門翁の墓があります。茶人でもあった故人らしく数寄な墓です。その一帯には数十の墓所がありますが、江戸時代や明治から続く古い墓ばかりです。杉や榎の原木が囲み狭い空しか見えないようなところで、年がら年中落葉だらけ。それでも、新規募集などしないプラチナ墓地だから、粋人たち垂涎の墓処です。興味のある方にはご案内したい。平林寺の拝観とあわせて日帰りのツアーを、企画しようと思っています。

○平林寺周辺には安左工門翁の所有した二つの山荘があります。ひとつは平林寺門前の睡足軒。もう一つは所沢市にある柳瀬山荘。柳瀬山荘は現在は東京国立博物館の管理になっています。そんな所にも足をのばして、どこか良い所で昼食して解散。あるいは熊谷まで貸切バスで帰ってくるというのはどうでしょうか。興味のある方は「行きたい」と住職の重い尻を叩いて！。最近旅行を企画するのが、億劫になっている私です。

○さて、前回江戸時代の禅僧・仙厓義梵禅師のことを書きました。死を間近にした禅師が遺偈を求める弟子たちへ「死にともない」と応えた逸話です。すると、どこで読んだのか仙厓さんが住職した博多・聖福寺の現在の住職・芙蓉庵老師から長文のお手紙をいただいて、幾つかの間違いを指摘されました。まずお名前の「仙厓」は間違いで「遷厓」であること。そして、「来る時は来処を知る／去る時は去処を知る／手を懸厓に撒せず／雲深して処を知らず」というきちんとした遺偈があるとのこと。聖福寺のキャッチフレーズは「扶桑最初禅窟」。日本で最初の禅寺という意味で、我が国へ初めて禅をもたらした栄西（ようさい）禅師が建てたお寺です。その栄西禅師が亡くなられて今年で八百年。その遠忌法要が九月五日に行われ、ご招待（拜請）をいただいています。行ってきました。（博芳記）

平成二十六年秋彼岸

発行 花岡博芳

松岩寺だより

本堂の行事は全部椅子席です。椅子その他を準備する都合上、ご出席の方は電話・FAX等でご連絡ください。

九月二十一日（日曜日）

十一時 彼岸法要

〈法要後〉お寺寄席

柳家喬の字

落語一席

正午すぎ終了

昨秋は、柳家さん喬師匠の落語「井戸の茶碗」をきいた彼岸法要でした。その時、前座をつとめるはずだった喬の字さんが、高速道路の渋滞に巻き込まれて、お師匠さんだけは新幹線で駆けつけたけれど、間に合わなかったのが昨年のリベンジ寄席です。ご期待ください。